令和元年度 学校関係者評価及び改善策

(中間·最終))

広南中学校区 校番 2 学校名 呉市立広南中学校

評価項目	※評価	理由·意見	
目標, 指標の設定の 適切さ	Α	○前回(第2回)の課題(少人数の学級の良さを生かして, 一人一人の生徒がしっかりと自分の考えを表現できる場をできるだけ多く設定してほしい。そして, 他者の意見を参考にしながら, 再度個人で自分の考えを広げてほしい。)に対応して柔軟に目標を設定している。	
目標達成のための方 策の適切さ	Α	○2学期の方策や今後の方策についても適切である。 ○目的(課題)に応じたタイムリーな指導を行っている。 ○今後も,今年度の成果と課題を生かしながら積み上げる教育活動を期待する。	
自己評価の結果と分 析の適切さ	Α	〇生徒アンケート,保護者アンケート,教職員アンケートと三者の評価を集め,具体的に結果を把握し,分析している。また,データだけでなく管理職の 観察など,直接関わる中で見取っている。	
今後の改善策(案)の適切さ	Α	○今年度の取組の成果と課題を整理し、来年度に向けて、焦点化した具体的な改善を望んでいる。	
その他	○のり○○○表○なく○●、昨声相で入りである。 ・年の記録へ現タど全生体の記述のである。 ・年の記述のである。	〈授業参観を通して〉 〇昨年度の課題であった,生徒の返事や発言の大きさは改善されてきている。発言の声の小さい生徒には,タイムリーに指導をしていた。今後も,自分の考えを,はっきりと相手に聞こえるよう話すことが基本であるので指導を継続してほしい。 〇ICTを活用しながら,興味や関心を高め,効果的に学習している。 〇導入部分に工夫があり,生徒に学ぶ必要感を抱かせている。 〇ペアやグループを活用しながら,生徒同士で関わり合う場面もあり,自分の考えを表現する場がある。 〇タブレットを使うだけでなく,コンパスを使ったり,実際に書くことを取り入れたりするなど,実体験しながら学ぶことができるよう工夫されている。 〈全体を通して〉 〇生徒は校内外で,あいさつをしっかりとしてくれる。授業中の立腰も意識している。 ●体力づくりについては,県平均と比べると課題が見られる。「健康で人生を生きる」ことを基本に,体力づくりにも期待する。	

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

	①授業改善について【ことば磨き】 (1)三角ロジックの考え方に基づき、自分の考え(主張、事実、論拠)を相手に分かり やすく伝える指導を行う。 (2)授業者は、生徒自身が自分の考えを述べ、相手の意見を聞きながら、自分の考 えを深めることができるよう、教材の工夫や発問の精選を行う。
学校関係者評価を受 けての今後の改善策	②タブレットの効果的な活用について【ICT教育】 (1)自分で情報収集し,テーマに沿って表現できるためのツールとして活用する。 (2)タブレットが逆に生徒間の対話を阻害しないよう意識するともに,目的に応じて効 果的に使用する。
	③教職員の業務改善による生徒に直接向き合う時間の確保について【業務改善】 (1)必ず前年度の成果と課題を確認し、改善策を定め今年度の実践を行う。(スクラップ&ビルドの視点で) (2)今年度の実施した取組の成果と課題を受けて、来年度の計画(改善案)を作成しておく。